

# 彙 報

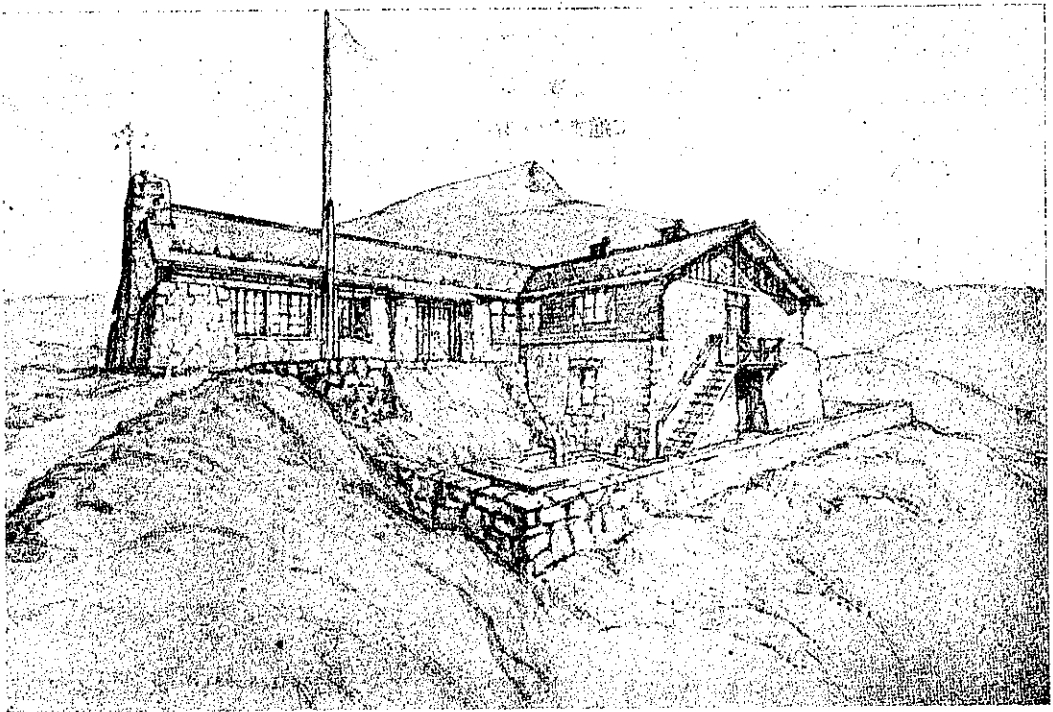
第 20 卷 第 5 號 昭和 9 年 5 月

## 國立公園に建つ山小屋建築設計圖

景勝地の保存と観光施設とのため、風光明媚なる地を國立公園に指定せんとする議は漸くその機熟し、疊に内務大臣は國立公園委員會をして 13 箇所の候補地(阿寒,大雪山,十和田,日光,富士,日本アルプス,吉野・熊野,瀬戸内海,大山,阿蘇,雲仙及び霧島)を選定せしめたのであるが、何れも所定の調査手續を了へ、近く夫々正式指定の運びに至らんとしてゐる。而してこれ等候補地に就ては観光施設の種々なる計畫のみならず、既に道路,宿舎等の建設に着手せるもの尠からず、殊に山小屋の建設に至つては相當多數計畫せられ、その建設は早晚實現されんとする現狀である。國立公園協會及び建築學會に於ては優秀なる山小屋の設計を得んため、兩者協同にて廣く設計圖案を募集せる所、内地,鮮,滿に互つて總數 193 通の應募を得た。その入賞せるもの、内 4 案を茲に拔萃した。

### 1. 日本アルプス白馬山に建つる山小屋 (建築學會正員間野貞吉君作) (第 1 圖~第 3 圖參照)

第 1 圖 透 視 圖

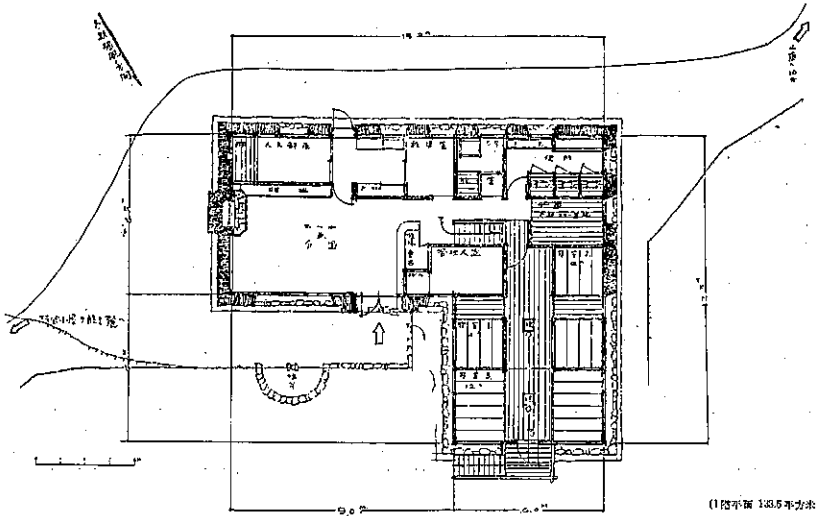


**位置** 白馬山, 森林限界以上の高地(現存頂上小屋附近を採る)

**外觀** 信州地方の民家の感じを採り, 稍々「スキス」風を加ふ。色は明るき茶褐色と淡黄色を主調とし, 冴へたる空と淡黄褐色の石と砂及僅少綠色との調和を圖る。

**材料及び構造** 假定せる土地は岩石及び砂を主とす。冬期は西北の強風, 積雪は 2m 前後, 地下 3 尺~5 尺に亘りて凍結を見る。

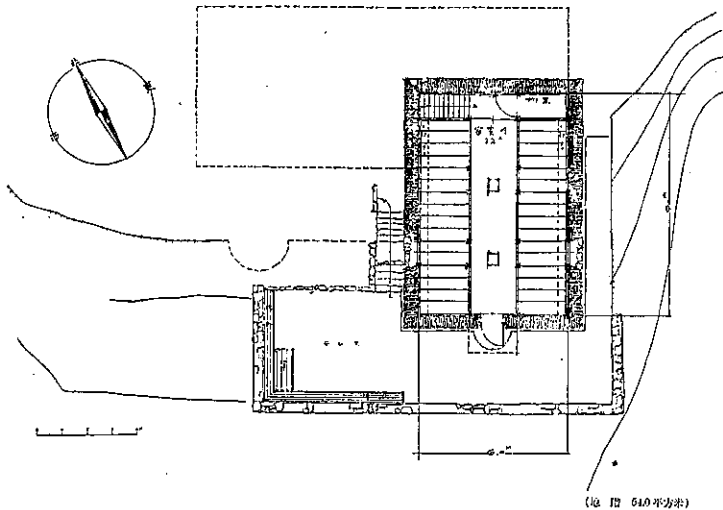
第 2 圖 1 階 平 面 圖



故に一部を石積となして、基礎を地表より 3 尺~5 尺に下げ凍害を防ぐと同時に強風並に積雪に對する防備とす。  
 之に要する石材・砂・水は現地であり、セメントのみ搬入を要す。

木造部分は丸太及び野角物を主として用ひ、木材の種類は山麓猿倉、四谷方面にて入手し易き物、落葉松・杉・唐檜・  
 檜・栗等場所により自由地使用す。又運搬に便なる爲に柱、梁その他總て短小にして輕き物を用ひ得る様に設計せり。

第 3 圖 地 階 平 面 圖



設 備 山小屋は必要に應じては食堂にも、亦寢室内の通路にも補助寢臺を持ち出し直ちに寢室となし得ることが  
 必要である。本設計に於ては 1 人の占むる場所を長さ 2 m、幅 50 cm としてある。上寢室はその通路を出来るだけ 1 箇  
 所に集めて非常時の際に有利にしてある。本設計に於ける建築面積は次の通りである。

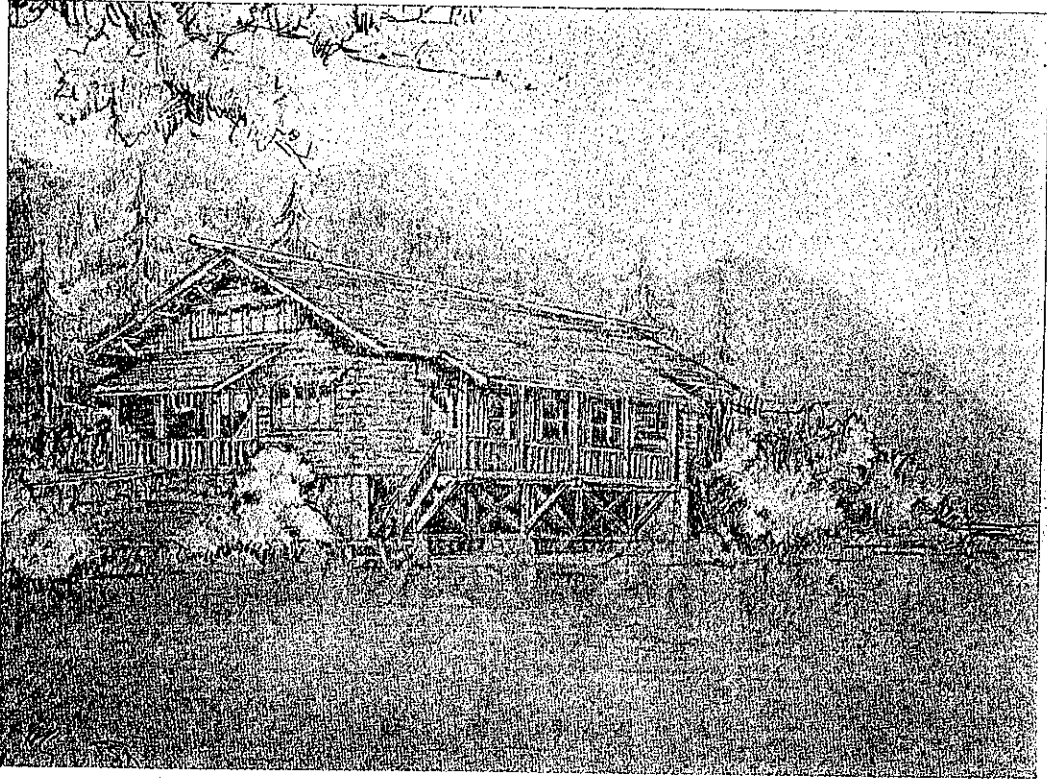
1 階 133.5 m<sup>2</sup>、 地階 54.0 m<sup>2</sup>、 計 187.5 m<sup>2</sup> 他にテレス約 50.0 m<sup>2</sup>

建築費は延 1 m<sup>2</sup> に付約 12 圓程度、他に運搬その他の雜費として 1 000 圓程度計約 3 300 圓

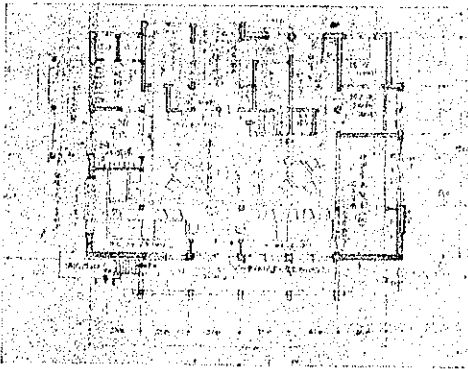
收容人員 地階 32 人、 1 階 (1) 4 人 (2) 8 人 (3) 12 人、 計 56 人

## 2. 十和田湖畔に建つる山小屋 (建築學會准員相澤珠壺君作) (第4圖~第6圖参照)

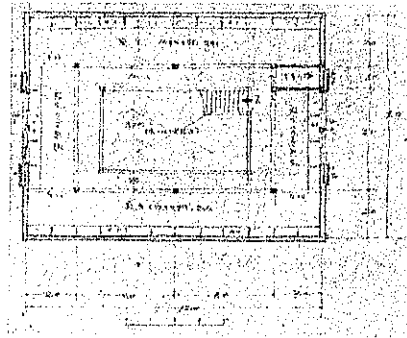
第4圖 透視圖



第5圖 1階平面圖



第6圖 2階平面圖

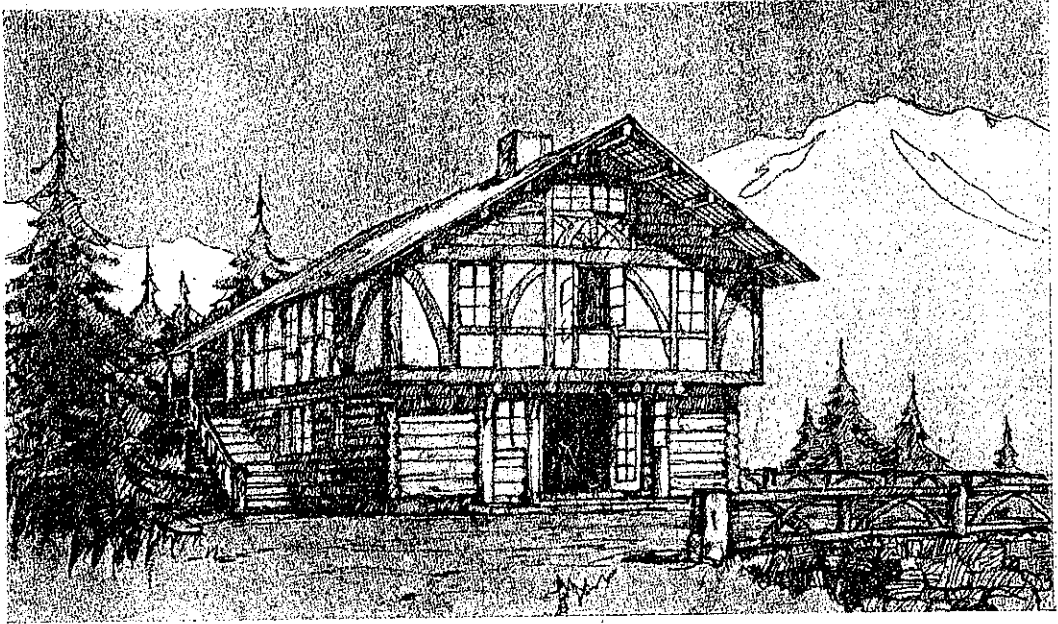


位置 十和田湖畔の深勝に適當の地帯を選び、夏のポート、冬のスケート等も可能の様、且つ附近の景勝に沿ふ様考案せり。

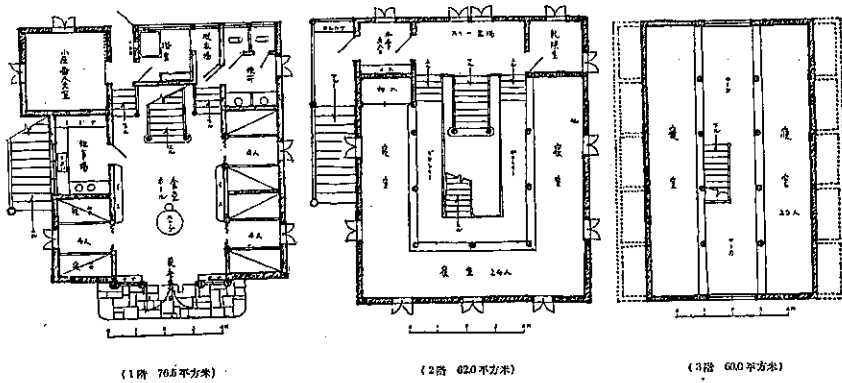
建築面積及び收容人員 1. 建築面積 1階 108.0m<sup>2</sup>, 2階 78.5m<sup>2</sup>, 計 186.5m<sup>2</sup>  
 2. 收容人員 1階 10人, 2階 66人, 計 76人

3. 日本アルプス森林地帯に建つる山小屋 (建築學會正員村田政眞君作) (第7圖及び第8圖参照)

第7圖透視圖



第8圖平面圖



平面 (延面積 172.5 平方米)

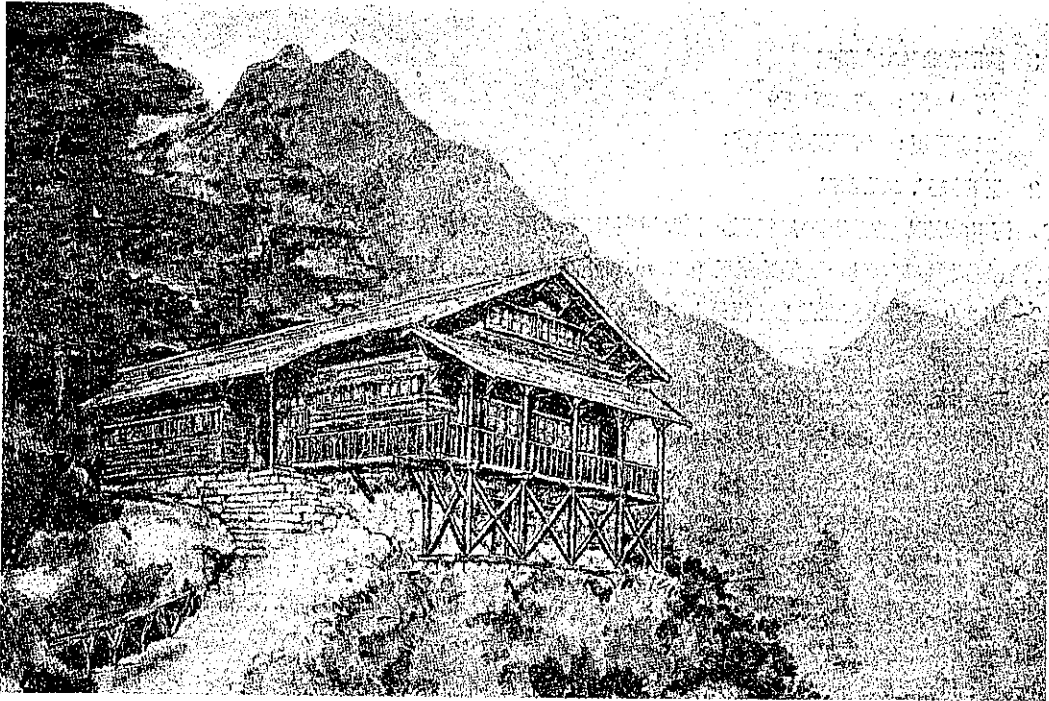
構造 木骨大壁式の構造とし、屋根は日本小屋組とす。

寢室 1階は上下2段の寝臺式とし、2,3階は區劃を廢して、登山客の多少に應じ、約100名までは宿泊出来る様にする。

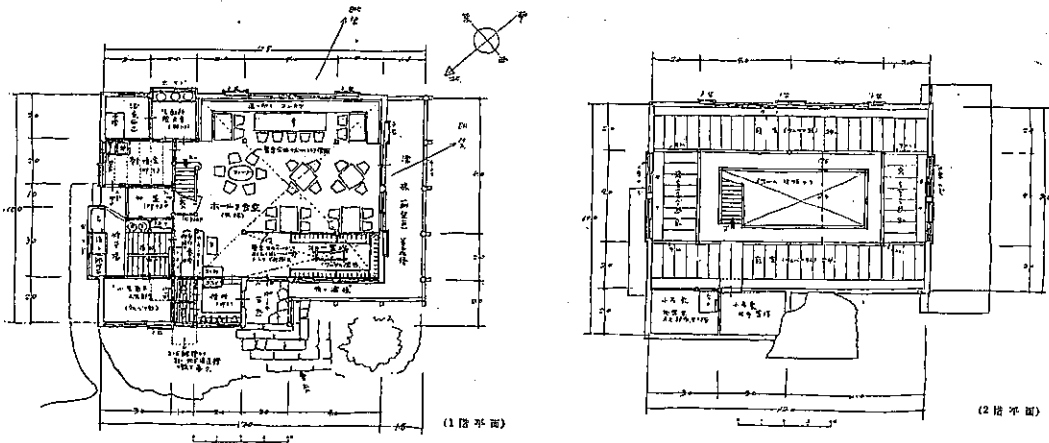
總て實用に重きを置き、なるべく原始的に考案し、構造材自身を裝飾とせり。

4. 日本アルプス森林地帯に建つ山小屋 (建築學會准員相澤珠壺君作) (第 9 圖及び第 10 圖参照)

第 9 圖 透 視 圖



第 10 圖 平 面 圖



位 置 日本アルプス黒部川上流に沿ふ森林地帯に位置を假定し、劍岳・立山等の登山の根據地の意味を想定して着案せり。意匠も出来る丈大自然に調和する様に工夫したり。

建築面積、收容人員 1. 建築面積 1 階 108.0 m<sup>2</sup>, 2 階 80.375 m<sup>2</sup>, 計延面積 188.375 m<sup>2</sup>

2. 收容人員 64 人